【 平成30年度　事業終了報告 】

原生林の山みちづくり

及び

できた山みちのお披露目イベント

おやまんなかフェスタの開催

東白川村 おやこ森のおさんぽ会

7/1 原生林の山みちづくり

参加者数：15名
作業時間：10:00～14:30（昼食休憩有）

▼作業風景

村雲和裕さんに何度も下見をしていただき、ルートの目印をつけていただきました。当日はそのルートに沿って 11 名で草刈り＆倒木しました。昼食は女性 4 名が準備をしてくれました。お力添えいただきありがとうございました!!!

【 ちなみに… 】完成した山みちを見た岐阜県立森林アカデミーの萩原准教授からは「多様な生態系が残っていて素晴らしい。危険な木や枝も良い具合に手入れしてあり、倒木がそのまま残っているのも子ども達の遊び道具になって良い。ルートも適度で子ども達の活動を見渡しやすい」と良い評価をいただきました。

10/14 おやまんなかフェスタ

入場者数：約130名（白川町から約25名／中津川・恵那・可児・岐阜市等から約35名／名古屋から約10名）
スタッフ：6名
サポートスタッフ：9名
出店数 ：5店

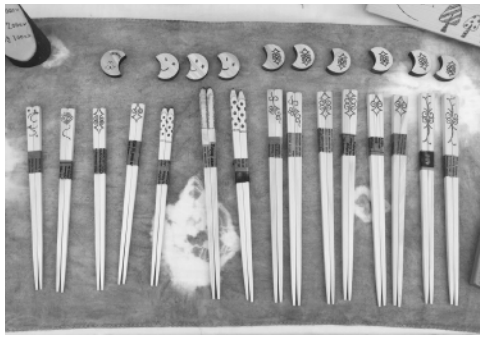
▼森のようちえん体験　45名ほどが参加

萩原ナバ祐作さんと森林アカデミーの学生 2 名がお越しくださいました。皆さん初めは緊張をしていた様子でしたがハンモックやロープ遊びをきっかけに子ども達それぞれが自分で遊びを見つけては自由に遊び、あっという間に 2 時間が過ぎました。

▼トンかち広場

田口房国さんから提供していただいた廃材を自由に使って自由に遊びました。シルバー人材さんから男性 2 名・女性 3 名の方が協力くださり、昔遊びを教えてくれました。特カリキュラムを作らず、子ども達がしたい創作や遊びにうちこみました。

▼おやまんなかマルシェ



自然の素材にこだわったお弁当やおやつは昼食時間に売り切れました。村内の作家さんが集うクラフトブースも賑わいました。

▼参加者の感想

・居心地がよく楽しかった
・もっと遊びたかった
・新しい発見があった
・週末にまた開催されれば来たい　　…など皆さん自由な雰囲気と大きな自然にとても癒された様子でした。

▼スタッフからの声

・子どもに対してどのように遊ぶべきかを誘導しないことで、子どもも自由な発想のもと遊ぶことができたし、
　大人も必要以上の労力を使わなかった。
・開始から終わりまでずっといてくれる人がいた。
・少人数のスタッフで運営できた。
・初めてのイベントにしては集客（告知）もとても良かったと思う。
・ケガもなく無事に終えることができ、参加者にとても満足をしていただけて良かった。
・フィールドが安全で良い状態だった。
・参加者数がちょうどいい人数でトンかち広場やマルシェの雰囲気も良かった。
・講師のロープワークがおもしろく、子ども達にはハンモックが人気だった。

▼イベントとしての反省点

・混雑時の受付の準備が万端でなかった。
・森のようちえん体験への飛び入り参加があり、参加者の最終把握がわかりにくかった。
・午後からの参加者や森のようちえん体験者以外に山みちをうまく案内できなかった。

取材もしていただけ、当日来場されなかった方からも暖かい声をいただきました。

東白川CATV
当日の様子を紹介してくださいました。

ぎふ森林づくりサポートセンター
公式ブログにアップしてくださいました。

中日新聞・毎日新聞
告知記事を掲載してくださいました。

収支報告

		収入	支出	内訳
がんばる地域づくり補助金		¥200,000		
自己資金		¥1,250		
おさんぽ会活動	研修費		¥10,000	森のようちえん指導者育成連続講座
	広告宣伝費		¥4,350	チラシ印刷代
	消耗品費		¥17,617	焚火台・シャベル・図鑑・工作道具等
山みちづくり	飲食費		¥9,400	15名分の昼食代（ご飯・鶏ちゃん・味噌汁）
	広告宣伝費		¥7,400	チラシ印刷・折り込み料
	交際費		¥1,285	土地管理者への挨拶
	消耗品費		¥7,949	燃料代
	保険料		¥7,973	NPO法人森づくりフォーラム保険登録
	利用料		¥2,570	はなのき別館調理室
おやまんなか フェスタ	飲食費		¥16,000	スタッフ16名分弁当
	広告宣伝費		¥21,333	チラシ印刷・折り込み料
	交通費		¥4,625	講師交通費
	消耗品費		¥60,132	工具・画材・ブルーシート・ハンモック等
	通信費		¥360	講師依頼書
	保険料		¥3,100	レクリエーション保険
	利用料		¥3,570	商工会テント・はなのき別館使用料
救急対策	消耗品費		¥23,586	救命救急セット購入費
	合計	¥201,250	¥201,250	
		収支合計	**¥0**	

来年度事業について

●今年度の事業の成果

・活動フィールドが広がり、子ども達の遊び場ができた。

・フィールドづくりやイベント開催をしたことで地域の方とつながりができた。

・地域の方に「森のようちえん」「幼児期の自然体験」を知っていただけた。

●今後の課題

・参加者やスタッフを増やしていく。

・フィールドの維持・安全管理をしていく。

●これからの活動名称について

「里山こどもの広場　おやまとこやま」に活動名を変更。

●来年度の事業について

・原生林の山みちを地元の方に活用していただき、地元保育園へも行事連結の提案。

・週末にも活動をする。

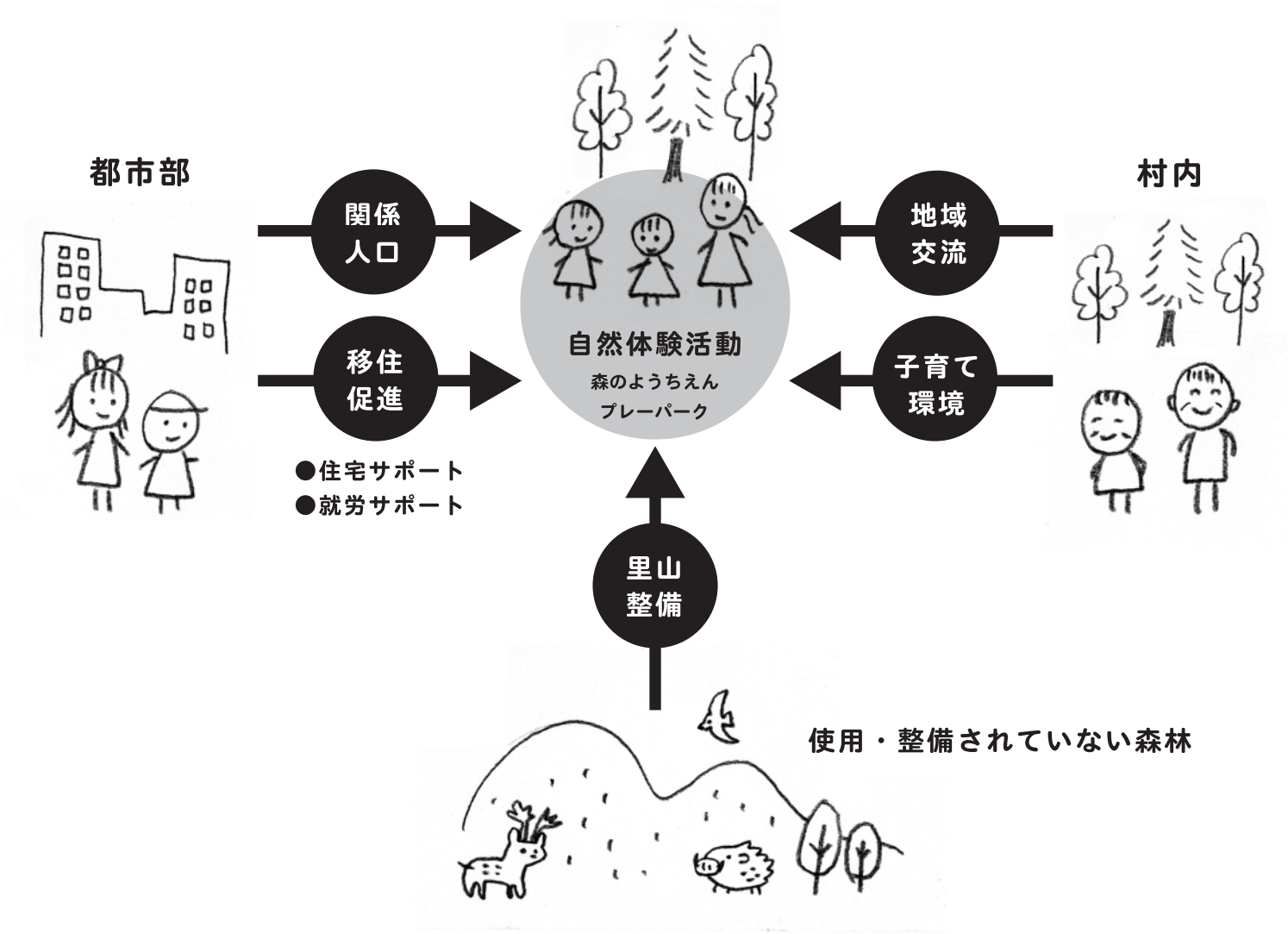
・山みちにある水路の手入れをする。

・拠点の検討をする。

・地域の方へ「幼児期の自然体験」の理解を深めていく。

▲2019 年3月9日 岐阜県後援「森のようちえんリレートークショー 小西貴士さんスライドショー」を村内で開催します!

活動をしてみて…自然体験活動による地域づくりの可能性



美しい村づくり…「持続可能な地域づくり」を子ども達を真ん中にして見てみる

次世代へどんな地域を残して
繋いでいきたいのか？

「持続可能な地域づくり」というと難しく聞こえますが、子ども達を
真ん中にして考えるととてもわかりやすくなります。
美しい自然やあたたかい地域と共に、子ども達がのびのびと
幸せに過ごせる環境は若い人たちに魅力的にうつると思います。

又、生活に関わるものを地産地消していく考え方に“ローカリゼーション”
がありますが、この考え方も「持続可能」につながっていきます。
例えば子どもたちの日々の生活に…

●給食のおやつが白川茶屋のドーナッツや野菜村の大福の日がある
●給食で牛乳ではなくて村のお茶を飲む
●学校の机や椅子を村の木材で作る

こんな風に子ども達の日々に「地域のつながり」を取り入れられます。